



世界で活躍する
日本の建設企業



敷地全景

イオンモール ハノイ2号店新築工事



鹿島ベトナム イオンモールハノイ2号店新築工事所長

戸島千秀

Chihiro Toshima

ベトナムの紹介

ベトナムは南北に長い国で、地形は日本列島のようなタツノオトシゴ型に似ている。緯度は違うけれどハノイが札幌なら、ホーチミンは山口あたりか。面積は日本が三七万平方キロメートルに対し、ベトナムは三三万平方キロメートル。人口は日本の一億二、五〇〇万人に対し、ベトナムは九、三七〇万人（二〇一七年末）。面積も人口も日本を一回り小さくした感じである。だが気候、文化の多様性は日本に負けていない。ホーチミンからハノイに移動すると、どことなく異国の匂いがする。また、ベトナム人の行動様式や宗教観は、周辺諸国のそれとは明らかに違う。他の東南アジア諸国がインド文化の影響を強く受けているのに対し、ベトナムは中国の影響が大きかったせいかもしれない。ベトナムは東南アジアと言うより、東アジア文化圏に属すると見るのが正解だ。そのベトナムは今、都市部の経済発展が著しい。ホーチミンでは超高層のオフィスビルやコンドミニアムが続々建設中であり、ハノイ周辺では都市鉄道の整備や、ハイフォンまでの高速道路の開通などインフラ投資が盛んである。

プロジェクトの紹介

当プロジェクトは、ハノイの東側にあるイオ

〇〇〇平方メートルの敷地に大型ショッピングモールを建設するプロジェクトである。建物は機械の町であるハドン地区を意識したものとなっており、建物を布で包み込むイメージとなっている。

工事概要

工事概要は、建築面積約四万四、〇〇〇平方メートル、延床面積約一五万平方メートル、地上四階地下一階のショッピングモールおよび駐車場を建設するものである。着工は二〇一八年三月で、二〇一九年十一月末の竣工を目指している。二〇一八年八月現在、基礎工事を施工中で毎日五〇〇人を超える作業スタッフが駆体工事を行って



起工式 (JVスタッフと記念撮影)



完成予想パース

ンモール一号店に続くハノイの第二号店である。建設地となるハドン区は、ハノイ市中心部と同区を結ぶベトナム初のバス高速輸送システム（BRT）、都市高速鉄道の新設等、公共交通網の整備を積極的に行っており、周辺地域の住宅開発も盛んで人口増加の著しい地区となっている。今回の工事は、ハノイ市内から西側に車で三〇分程度の新興住宅街に隣接する、九万八、

り、最盛期は二、〇〇〇人を超える予定だ。今回の工事は、地元大手建設会社であるホアビン社とJVを組んでいる。このJVにより、お互いの強みを生かした施工体制を構築し、発注、現場管理、安全管理を行っている。工事に従事するJVスタッフは設計、施工、安全、品質管理等総勢七〇人を超えている。JVを組むことによる現地への貢献もある。

工法としては、大スパン部分にポストテンション工法を採用することにより大梁の高さを小さくし、天井の仕上げ高さを確保している。また、大空間には鉄骨構造を採用し空間の確保を行っている。

内装および外装については、顧客要望を満たすために設計チームと施工チームの連携を密に行い、顧客要望の現場へのフィードバックを遅滞無く行っている。

終わりに

当プロジェクトは、経済成長著しく、若々しい国ベトナムの人々の生活に潤いや楽しさを提供すると同時に、多くの雇用を生み出すビッグプロジェクトである。二〇一九年末の完成に向け、これから正念場を迎えるが、無事故無災害を肝に銘じて全身全霊をこめて取り組む所存である。